

## 2 事故直後の対応

### 子どもの悲しみや不安を受け止める

- 家族を亡くしたショックから、子どもは深い悲しみや不安を感じています。子どものそのような思いについては、親が受け止めることが期待されますが、親も取り乱しており、対応できないことがほとんどです。実際には難しいことですが、できるだけ子どもへの配慮をこころがけます。

### 子どもの通夜・葬儀への参加を支える

- 通夜や葬儀には、家族を亡くした子どもができるだけ参列できるようにすることが、よいと思われます。参列させてもらえないと、子どもは実際よりもはるかにひどいことが起こっていると想像してしまうからです。ただし、無理強いはせずに、通夜や葬儀について十分説明した上で、子どもに選択させるようにします。参列したくないということであれば、その意見を尊重しましょう。また、途中退席や部分的に参列するだけでもかまわないことを伝えます。

#### 支援者の対応

子どもが通夜や葬儀に参列する場合は、信頼できる大人が付き添えることがよいでしょう。また、通夜や葬儀の様子を説明できる人がいれば、流れや様子を説明すると見通しが立ち、通夜や葬儀に対する不安が軽減されます。

### 信頼できる人に子どもの付添いを頼む

- 事故直後に誰かが子どもに付き添ってくれれば、子どもは安心します。家族が亡くなったショックから、親は子どものことにあまり目が向かなくなり、そのような親に対して、子ども自身はどう接してよいか、戸惑っている状態です。そのようなときに、落ち着いている大人が側にいると、大変心強く感じるものです。

#### 支援者の対応

事故後、亡くなった家族が病院にいる間や、通夜・葬儀の間、さらにはその後しばらくの間は、安心して側にいてくれる大人がいると、子どもにとっては大きな助けになります。

### 生活の支援を頼む

- 家族が亡くなったことで、親は家事や生活全般に気が回らなくなります。事故から葬儀に至るまで、また、その後しばらくは、親が子どもの世話をできなくなることもあるでしょう。特に母親など家事を担当していた親が亡くなった場合については、食事のことや生活全般について、依頼できる人や行政機関に依頼することも検討しましょう。

### 支援者の対応

食事や生活の支援については、周囲ができる範囲でかまいません。また、具体的な支援が難しくても、周囲が見守っているという姿勢をさりげなく示すことで、子どもは安心することもあります。



### 友人・支援者の対応

子どもの学業の支援も必要です。子どもは事故後、しばらく学校を欠席することになりますので、その間の授業ノートやプリントなど、学校の先生や友人などが協力して支援するようにしましょう。

## 子ども達の声



- 母が亡くなった時、私たちきょうだいはまだ幼かったため、毎週叔母がご飯を作りに来てくれ、母の分まで愛情を込めて育ててくれた。  
20代女性（4歳のときに母親を亡くされた方）
- 叔母が食事を作ってきてくれたり、受験生だったのでお守りも作ってくれたり、高校の説明会につきそってくれたりした。  
30代女性（15歳のときに母親を亡くされた方）
- 母子家庭になり生活が苦しくなって、家族で旅行やレジャーに行くことがなくなってしまったが、親戚の叔父や叔母、祖父母が誕生日やクリスマスにどこかへ連れて行ってくれたり、プレゼントをくれたりして、とても嬉しかった。  
20代女性（8歳のときに父親を亡くされた方）

平成23年度内閣府交通事故被害者サポート事業報告書 WEB 調査結果より